

2019年度第2回公開講演会

英語学習開始時期と習得について—その複雑な関係—

講師：バトラー後藤裕子氏（ペンシルベニア大学教授）

日時：2020年1月25日（土）15:15-18:00

場所：目白大学新宿キャンパス10号館10303教室 入場無料

講演会プログラム：

15:15-15:20

開会あいさつ

15:20-15:40

マスワナ紗矢子（目白大学）「英語ライティング教育の高大接続」

15:40-16:00

時本真吾（目白大学）「ニューロフィードバックを用いた外国語学習支援」

16:00-16:20

久保田美子（目白大学）「ノンネイティブ日本語教師のビリーフ」

休憩

16:30-18:00

バトラー後藤裕子「英語学習開始時期と習得について—その複雑な関係—」



講師紹介

スタンフォード大学でPh.D.（教育心理学）を取得。現在はペンシルベニア大学教育学大学院教育言語学部教授。

著書

『英語学習は早いほど良いのか』岩波書店 2015年
『学習言語とは何か—教科学習に必要な言語能力』三省堂 2011年
ほか多数の著書・論文

講演要旨

言語学習はできるだけ早期に始めたほうが良いとする考えは、保護者をはじめ、広く一般にいきわたっています。しかし、本当にそうなのでしょうか。今回の発表では、研究者のとった軌跡をたどりながら、この問題の解明は複雑であること、どうして複雑なのか、そして、そこから私たちが学べることは何かを考えていきたいと思えます。

進学相談会（13:00-15:00および講演会后）もご利用ください。

主催 目白大学言語文化研究科

共催 目白大学外国語学部

お問い合わせ：時本真吾（tokimoto@mejiro.ac.jp）